

日本・パナマ外相会談（３月３日（月））

共同プレス・ステートメント

1. アルバレス・デ・ソト・パナマ外相は、日本国政府の招待により２０１４年３月２日から４日までの日程で訪日し、２０１４年３月３日に岸田外務大臣と外相会談を実施した。
2. 両外相は、今次外相会談を２０１２年１０月に両国間で署名された「日本国外務省とパナマ共和国外務省との間の政策協議に関する覚書」に基づく二国間政策協議と位置づけた上で、二国間関係を促進し、相互に関心を有する地域的及び国際的な諸問題について幅広い意見交換を行った。
3. 両外相は、本年２０１４年が日・パナマ外交関係１１０周年及びパナマ運河完成１００周年にあたることを想起しつつ、この外交関係の節目にあって両国外相が外相会談を実施することの意義を確認した。また、２０１２年１０月に実施されたマルティネリ・パナマ大統領他パナマ関係閣僚の訪日及び２０１３年５月に実施された岸田外務大臣のパナマ訪問に続き、本年２０１４年も要人往来が継続していることに満足の意を表した。
4. 両外相は、国連海洋法条約を含む普遍的に認められている国際法の諸原則を遵守することは、国際社会の平和及び繁栄のために不可欠であるとの認識を共有した。両外相は、海事分野における協力が活発に行われている現状を確認しつつ、今後も国際海事機関などを通じた協力関係をさらに発展させていくとの意志を確認した。また、日本企業が多大な関心を寄せるパナマ運河通航料及び運河拡張計画の進捗についても、今後日本とパナマ側が積極的に意見交換を行っていくことで一致した。
5. 岸田大臣は、近年パナマ経済が安定的に成長していること及びビジネス環境整備を意欲的に進めていることを高く評価するとともに、日本企業の進出につながる取組が強化されることへの期待を表明した。アルバレス・デ・ソト外相は、世界経済フォーラム・ラテンアメリカ会合が４月１日～３日に、この種の会議としては初めてパナマ・シティで開催されることを強調するとともに、日本からの積極的な参加に期待を示した。岸田大臣は、このようなイニシアティブを歓迎するとともに、フォーラムが成功となることを望む旨述べた。

6. アルバレス・デ・ソト外相はパナマの直近5年間の国際的貿易統合アジェンダを共有するとともに、パナマがアジア地域との貿易関係強化に関心を有していることを強調した。岸田大臣は、国際貿易並びに中米統合機構(SICA)や太平洋同盟を通じた地域統合の進展へのパナマの貢献を認識した。両外相は、両国政府には、二国間貿易を更に促進するためにまだ多くの余地が残されているとの認識で一致した。
7. アルバレス・デ・ソト外相は、パナマ政府が、『パナマ首都圏都市交通3号線整備計画』について、「モノレール」及び（橋梁形態につき可能な限り早急に最終判断を下すべく両政府が更なる協議を行うという理解の下）日本政府が協力準備調査の中で最良の選択肢として提案している「アーチ橋」のようなパナマ運河上に架かる橋梁が、本計画に必要である旨を表明した。これに関して、アルバレス・デ・ソト外相は、本計画を円借款でファイナンスして欲しいとのパナマ政府の希望を表明した。これに対し、岸田大臣は、日本政府が、本計画への円借款供与について前向きに検討する用意があることを表明した。
8. アルバレス・デ・ソト外相は、パナマもこれまでに裨益してきた日本のODAが60周年を迎えることを讃えるとともに、世界各国の発展を後押しするための日本の継続的な取組に対して謝意を表明した。
9. 両外相は、「マネーロンダリング及びテロ資金供与に関する情報交換枠組み」に関し当局間で早期に署名が行われる見込みであることを歓迎した。
10. 両外相は、北朝鮮による核兵器及び弾道ミサイル開発計画の継続について深刻な懸念を表明した。岸田大臣は、昨年7月にパナマ政府が北朝鮮船籍船から軍事物資を押収した事案に関し、パナマ政府による毅然とした取り組みを高く評価するとともに、今後もパナマが国連安保理決議を着実に実施することに対する期待を表明した。また、両外相は国際社会が有する人道上の懸念である拉致問題の解決に向け協力していくことで一致した。
11. アルバレス・デ・ソト外相は、日本側がパナマ外交・公用旅券所持者に対する査証免除措置をとることに対する期待を表明した。岸田大臣は、検討に必要となる追加的な情報の提供を依頼する旨述べた。
12. 両外相は、民主主義、人権、法の支配、人間の安全保障、自由かつ開か

れた市場を共有することを確認し、国際場裡における協力をより一層強化することで地球規模的課題に対処していくとの決意を表明した。

13. 両外相は、平和と安全の維持における国連の役割及び重要性を認識し、国連安全保障理事会を改革し、その実効性、透明性及び代表性を向上させる必要性を強調した。両外相は、遅くとも2015年までに改革の具体的成果を達成するための取組を強化する必要性を強調し、改革実現のために協力し、対話を強化する決意を改めて表明した。
14. 岸田大臣は、日本の安全保障並びに地域及び世界の平和と安定にこれまで以上に貢献するとの、国際協調主義に基づく「積極的平和主義」の下、行っているのと最近の取組につき説明を行った。アルバレス・デ・ソト外相は、地域及び世界の平和と安定に貢献する日本の活動への支持を表明すると共に、世界で広く知られている日本の平和国家としての活動及び決意を支持した。
15. 両外相は、太平洋同盟や日・中米「対話と協力」フォーラムなどの枠組みを通じた協力の深化に向けた意志を確認した。また、双方は東アジア情勢についても意見交換を行い、パナマ側は日本側の立場に関する理解を示した。
16. アルバレス・デ・ソト・パナマ外相の訪日及び外相会談は、友好及び信頼の雰囲気の下で行われ、日本とパナマの二国間関係の一層の発展に貢献した。
17. アルバレス・デ・ソト外相は岸田大臣及び日本政府の歓待に感謝するとともに、日本国総理を近い将来パナマに招待したい旨述べた。岸田大臣は、パナマ側の誠意ある申し出に感謝するとともに、この特別な年にアルバレス・デ・ソト外相の訪日が実現したことに新ためて謝意を表明した。

(了)